

出社回帰 会議効率化が必須

3年に亘ったコロナ禍がやっと終息を向かえようとしています。

そんな中、テレワークから出社に回帰している企業が増えています。以下はテレワーク継続に関する、ある調査結果です。

テレワーク推奨度	
緊急事態宣言発令時	約44%
緊急事態宣言解除後	約24%

(パーソル総合研究所)

このように、テレワーク推奨度は下がってきていました。さらに、終息後にもテレワークを続けたいと考える企業は、約12%に過ぎないそうです（同調査）。

テレワークの一部は継続するものの、基本は出社とする企業が多くなるのでしょう。

しかし、コロナ前と同じ状況にしていけないことがあります。

それは、『ムダな会議、効率悪い会議を無くす』ことです。

皆様は、覚えていますでしょうか。テレワークに移行した際、良かったことを悪かったことを各社が調査しました。

その良かったことの中に『ムダな会議が減った』というのが挙がりました。出社が当たり前だったコロナ前、いかに会議が非効率的だったかです。

リモートなら、会議中でも内職ができたでしょう。しかし、対面では、そうもいきません。

実は、テレワークを継続したい思っている社員は8割以上いるようです。必ずしも出社に好意的でない上に、またムダな会議が復活すれば、モチベーションが低下します。離職にもつながってしまうでしょう。生産性の高い会議開催は、出社回帰において不可欠です。

以下が非効率会議の一例です。

非効率（ムダ）会議例
本当にその会議が必要なのか吟味されずに開催される（例：定例会議）
会議の目的が不明確、あるいは全員が統一理解されていない
会議終了時刻が守られない。そもそも終了時刻が決まっていない
話が長い、わかりにくい人がいる
そういう人に限って、発言回数が多い
発言に不明点があっても、指摘せず、理解できていないのに、議論が続く
最終的に何が決まったのか曖昧
議事録が迅速に作成されない。作成されても、読まない
司会が司会しない

弊社では、ファシリテーション力向上、議事録作成力向上、ディベート力向上等々、生産性の高い会議を行うための、様々なお手伝いを行っています。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。



> お問い合わせはこちら